伊志岐耶、

〔萬葉集一雜歌〕太上天皇○持統幸于難波宮時歌

旅爾之而、物戀之伎乃、鳴事毛、不所聞有世者、孤悲而死萬思、

右一首、高安大島、

〔萬葉集十九〕見飛翻翔鳴作歌一首

春儲而、物悲爾、三更而、羽振鳴志藝、誰田爾加須牟、

〔神樂歌〕井奈野

本　ゑながとりや、ゐなのふし原、あいぞ、とびてくる、ゑぎが羽音は、おとおもしろき、ゑぎが羽おとは、

末　ゑながとりや、ゐなのふし原、あいぞ、あみさすや、わがせの君は、いくらがとりけん、いくらかとりけん、

脇母古

本　わぎもこにや、一夜はだふれ、あいぞ、あやまちせしより、鳥もとられず、鳥もとられずや、

末　ゑかりともや、わがせの君は、あいぞ、いつゝとりむつとり、七つ八つとり、こゝのよとをはとり、とをはとりけんや、

〔袖中抄十八〕ゑぢのはしがきしぎのはねがき○中略

又云、○歌論義、中略昔あだなる男をたのむ女有けり、こぬよのかずはおほく、くる夜のかずはすくなかりければ、かのこぬよかずをかく事なん、曉のゑぎと云鳥のはねかくよりもおほかると云なるべし、

〔古今和歌集十五戀〕題ゑらず　よみ人ゑらず

曉の鳴のはねがきもゝはがき君がこぬよは我ぞかずかく